

本町にある子ども科学館では、第1回子ども科学館まつりが開催されました。会場の子どもの科学館や市民会館には、県内の大学や高校、企業などの協力で30か所以上の科学実験や工作コーナーが設けられ、会場に訪れた700人を超す子どもたちや家族連れは、科学のおもしろさや不思議さを体感したり小物作品を作ったりして楽しく過ごしていました。



8/23

めざせ!! 未来の科学博士
▼第1回子ども科学館まつり

すぽと CAMERA カメラ SPOT ラ

大村市ホームページでは、行事・イベントをいち早くお届けする「とれたてカメラすぽと」を開設しています。
トップページからバナナをクリックしてください。

とれたてカメラすぽと
行事やイベントなどの紹介
クリック



毎日山道を歩き移動する。3日目は岩場を登り経が岳山頂を目指す



炊飯は毎回火起こしから。火が起きないと食事がとれないことも。テントは重くして持てないので毎晩寝袋で野宿する(金泉寺)



経が岳頂上への顔も達成感の笑みがこぼれる

中央公民館と大村市レクリエーション協会が共催するチャレンジキャンプは16年目を迎え、今年は14人の小中学生が厳しい自然の中で生きていく4泊5日に挑戦しました。スタッフは何もしてあげないで見守るだけ、生きていくうえで必要なこと全てにチャレンジした5日間。子どもたちのチャレンジ精神を尊重し失敗をすすめるこのキャンプですが、保護者などが待つ市コミセンにゴールした子どもたちの顔には自信が満ちあふれていました。

8/9
~
13

子どもから失敗をする権利を取り上げないで!!
▼チャレンジキャンプおおむら



8/24

乳がんから女性を守ろう
▼ピンクリボンフェスタ in おおむら

乳がんに対する正しい情報や知識を知ってもらおうと今年初めて開催されました。会場の市民会館では、乳がんに関する講演会や乳がん検診に使用されるマンモグラフィ撮影の体験など、さまざまなイベントが行われ、来場した約500人の皆さんは乳がんに対する知識を深めていました。
※ピンクリボン…乳がんの早期発見・早期治療への思いを込めた世界共通のシンボルマーク



8/18
~
22

地域の子どもは地域で育む
▼第4回松原宿寺子屋塾

旧長崎街道の松原宿にある旧松屋旅館で、松原小学校の児童56人が参加して寺子屋塾が今年も開校しました。これは、地域で子どもたちの健全な育成などを図ろうと松原宿活性化協議会が開いたものです。夏休み期間中の5日間、地域の有志の人を先生に、郷土の歴史の学習や昔のあそびなど普段学校では体験できないプログラムばかりで、参加した子どもたちは、仲間づくりをしながら楽しく学習していました。



市立大村市民病院 ☎2126

常勤の産婦人科医として勤務しています



産婦人科
松口一道科長

大村市民病院にはこの数年間、常勤の産婦人科医師が不在でしたが、4月からの常勤医師として勤務している松口です。これまで常勤の医師がいなかったためにできなかったことなどを含め、市民のために精一杯がんばりますので皆さんよろしくお願ひします。

産婦人科領域の検査

産婦人科での検査には内診(触診・腔鏡診)、外診、血液検査、尿検査、超音波検査、X線検査などがあります。それぞれ目的に応じて検査を行ったうえで診療を行っていきます。これらの検査の中でも「超音波検査」は妊婦さんがおなかの中の赤ちゃんの姿を見る手段や乳がんを発見するための検査方法として有名です。

乳がん検診

女性ががかかるがんの中で乳がんの

罹患率は1位となっています。現在では1000人に1人が乳がんにかかると言われていますが、罹患率は高くて乳がんによる死亡率は4位となっています。それだけ、早期に発見できれば治療回復できます。この乳がんを早期発見するために乳がん検診が行われています。

マンモグラフィー検査

なぜマンモグラフィーの検査を受けなきゃいけないの?エコー検査ではないのでは?と思う人もいるでしょう。なぜ乳がん検査でマンモグラフィーが必要かと言うと、「石灰化」を発見できるからです。マンモグラフィーは、細かい石灰化の変化を捉えることができる検査であり、乳がんの病巣に石灰化ができることがあるので、このマンモグラフィーの検診が重要とされているのです。乳がんには、石灰化は非常に細かいものが多いため、マンモグラフィー以外の方法では発見することが困難とされています。

乳がんの治療方法

乳がんは診断されたら、乳がんの病期やがんの状態によって、乳房温存療法・放射線療法・乳房切除術・化学療法・ホルモン療法などいくつかの治療法があります。医師と患者さんが相談のうえ、がんが再発しないようにもっとも良い治療法を選ぶことが重要です。

しかし何よりも大切なことは、普段からの健康管理と規則正しい生活習慣、早期発見早期治療なのです。

Series of Environmental

シリーズ環境

もったいなくエコロジー vol.4

地球温暖化問題④

ごみを減らすことで「温室効果ガスの削減」につながります!

家庭から出る可燃ごみを清掃センターで焼却処理する際には、「二酸化炭素(CO₂)」などの温室効果ガスが排出されます。特にポリ袋や食品容器などのプラスチックごみを焼却するときには、多量のCO₂が排出されます。

温暖化防止のために資源ごみのリサイクルに努めるとともに、ごみの発生につながることを控える取り組みも必要です。市では、ごみの減量化を図りながら、温暖化防止にもつながる取り組みとして、各種の団体と協力しながら「マイバッグ持参運動」を展開しています。

多くのスーパー・商店でもレジ袋を減らすための取り組みを行っています。買い物の際には、マイバッグ(買い物かご袋)を持参し、レジ袋削減による資源の節約と温暖化防止にご協力ください。



私たちにできる取り組み

※環境省「身近な地球温暖化対策」より

①ものの再使用やごみを分別してリサイクルしよう!

ものを大事に使う、再使用に努め、リサイクルできる資源物は、ごみとして出さずしっかりと分別をして、リサイクルをしましょう。

・リサイクルなどとしてプラスチックごみを減らすと...

年間約27kgのCO₂を削減
(杉の木約2本分の年間吸収量)
※1年で10kgのプラスチックごみを減らした場合

②風呂の残り湯を再利用しよう!

洗濯や庭の水やりなどに利用しましょう。残り湯利用のために市販のポンプを使うと便利です。

・残り湯を洗濯に使いまわすと...

年間約7kgのCO₂を削減
(杉の木約0.5本分の年間吸収量)
約4200円の節約

※環境にも財布にもやさしい取り組みをできることから始めましょう

問い合わせ 環境保全課(内線142)